

## 日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
昭和63年度気象研究所 研究発表会	昭和63年11月21日 ～22日	気象研究所企画室	気象研究所講堂	Vol. 35, No. 10
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究 センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4
第2回 WCRP シンポジ ウム	昭和63年11月28日 ～30日	WCRP 協議会	京都大学楽友会館	
環境科学シンポジウム 環境科学 1988年会	昭和63年11月30日 ～12月2日	同年会実行委員会	東京虎ノ門パストラル	Vol. 35, No. 10
第10回風工学シンポジ ウム	昭和63年12月1日 ～2日	同運営委員会	東京・中央大学理工学部	Vol. 35, No. 4
風に関するシンポジウム	昭和63年12月9日	日本農業気象学会	つくば市・農業環境技術 研究所	Vol. 35, No. 6
月例会「レーダー気象」	昭和63年12月20日		気象庁	Vol. 35, No. 7
第3回「大学と科学」公 開シンポジウム	昭和64年1月30日 ～2月1日	同組織委員会	経団連ホール	Vol. 35, No. 9
第4回オホーツク海と流 水に関する国際シンポジ ウム	1989年2月5日 ～7日	オホーツク海水海研究グ ループ	紋別市民会館	Vol. 35, No. 10
日本気象学会 昭和64年度春季大会	昭和64年5月25日 ～26日	日本気象学会	気象庁	
International Conference on Modelling of Global Climate Change and Variability	1989年9月11日 ～5日	Meteorologisches Institut der Universität Hamburg	ハンブルグ大学	

編集後記：南極基地に越冬中の第29次南極地域観測隊から「8月下旬から9月上旬にかけて、顕著な成層圏突然昇温及びオゾン量の増加が観測された」との報告がありました。30 mb 気温が8/22の $-83.3^{\circ}\text{C}$ から9/1の $-26.8^{\circ}\text{C}$ と約 $57^{\circ}\text{C}$ 昇温し、8月の気温としては観測開始以来の最高気温を記録しました。(従来は、 $-61.2^{\circ}\text{C}$ )また、これにともない、オゾン全量・成層圏のオゾン量も増大しました。その後、9/5には気温、オゾン量ともほぼ平年並みに回復しました。

突然昇温と同時にオゾンゾンデによるオゾン量の鉛直分布を観測した例は少なく貴重なデータを得たとのこと

ですが、気象においてはいかに定常観測を続けることが大切かということの例だと思います。

さて、今月号はいかがでしょうか。天気の内容も以前と変わってきましたので、この度投稿規定を改訂しました。投稿の際は、今月号に掲載された新しい投稿規定をお願いします。

また、天気の一層の内容の充実と親しみを持てる誌面作りのために、アンケートを実施します。とじ込みのハガキに、要望なり不満なり日頃の思いを書き込み、さっそくポストに入れましょう。(S.S)